

令和6年1月9日

3学期始業式の話

あっという間の冬休みが終わり、今日から3学期が始まりました。お正月1日の夕方、石川県を中心に大きな地震の情報が入ってきました。地震と津波で死者150名をこえ、行方不明者300名以上の大きな災害です。おそらく多くの中学校は、避難場所となり、その中で、今日の始業式を迎えた学校もあれば、始業式を迎えられずにボランティアの活動や被災地の片付けを手伝っているみなさんと同年齢の中学生も多くいると思われます。もし、この地震が、瀬戸内市で起こっていたら、みんなはどんな行動ができていたでしょうか、想像もつかない出来事だと思います。

そんな中、台湾政府は、『日本の有事は、台湾の有事』とあって、6000万円の義援金と日本への救助隊の準備を表明しています。

台湾は、コロナの時に日本の子ども達にマスクを寄付してくれたのをみんなも覚えていると思います。

「日本の災難は、自分の国の災難だ」といった背景には、戦争中を含めた日本と台湾の強いつながりと友好関係にあると思います。災害があったから、声をかけ、手を差し伸べることは、多くの人ができることです。しかし、本当に心から相手を応援できるのはどんなときでしょうか。

それは、平和に過ごしている我々が、普段から周りの人のことを思いやったり、声をかけたりすることで、人と人がつながり、自分が本当に困ったときにいち早くつながってくれたり、応援してくれたりする人となると思います。

2学期の終業式で、「応援される人になろう」という話をしました。この3学期、自分たちの行動で、邑久中学校の440人がつながり、地域の人や他の学校の人達ともつながれる。そして、「邑久中学校の生徒だから応援しよう」といわれるそんな学校にしていきたいと思います。

3学期からのみんなの行動に期待しています。